

寄の虫



カワトンボ
(4月～7月)



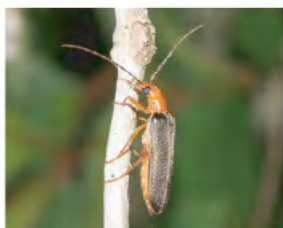
オオオバボタル
(6月～8月)



ムネクリイロボタル
(5月～7月)



フタツメカワゲラ
(5月～7月)



アオカミキリモドキ
(6月～8月)



ゴマダラカミキリ
(6月～8月)



ノコギリクワガタ (7月～8月)



オオセンチコガネ (5月～10月)



カツオゾウムシ (5月～7月)



クヌギシギゾウムシ (8月～10月)



ハッカハムシ
(5月～10月)



クサギカメムシ
(4月～11月)



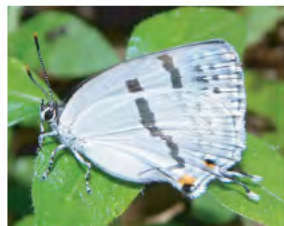
ナガメ
(4月～10月)



マルカメムシ
(4月～11月)



ツバメシジミ
(4月～11月)



ミズイロオナガシジミ
(5月～6月)



ヒオドシチョウ (3～6月、9～11月)



コムスジ (4月～10月)



ヤママユ (8月～9月)



ヤマトクロスジヘビトンボ (6月～7月)

寄
ソ
ー
ン

コラム

スミナガシ発見！



寄に住む方が自宅で
写した写真です。観察
会の時にお持ちいた
きました。大きく美し
い蝶ですが稀にしか見
ることが出来ないもの
なのです。羽の模様が
宮中の遊び「墨ながし
」の墨の模様と見た名
前です。寄の自然の豊
かさを感じることも出
来ます。

寄に国蝶がいた！

—平成17年度

寄小6年生の实践（抜粋）—

●オオムラサキの幼虫が食
べる木は「エノキ」と知り、寄
にあるエノキを調べ、マップ
を作った。巨木らしきエノキ
は8本あった。

●調査開始。最後の一本、中
津川の土手のエノキに幼虫が
いた。

●教室にエノキを持ち込み育
てたが、死んでしまった。

●山梨のオオムラサキセンタ
ーから幼虫を分けてもらう。
見事に羽化。手乗りオオムラ
サキになった。成虫は、オオ
ムラサキセンターに返しに行
った。

オオムラサキのかんさつ 2005.6.9

(6齢幼虫)

<2021-0327(453)>

6齢のムラサキは、6年1月までいなくて
きはやく葉を食へ初めました。
そしてとんとん食べて、早く早く育っ
ていきました。そして、このごろなんが
じょうとしてきた。

<2021-03-13(454)>

なんが自分の体に糸をほいて、さ
なぎになろうとしている。後なん
か色がとうめいになつてきた。

(45)

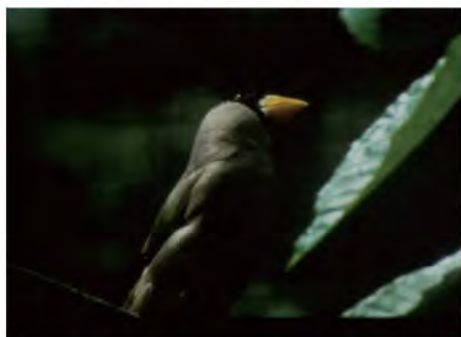


寄の野鳥



カワセミ

青と橙色の二色が目立つ美しい小鳥で、自然観察者の人気者です。水中の小魚を飛び込んでとらえたり、空中停止をしたりします。



イカル

スズメより少し大きめの鳥。黒い顔と太くて大きな黄色いくちばしが目立ちます。キキコキーとさえずります。



ハクセキレイ

尾を振りながら餌をあさる姿をよく見かけます。道路などでも見かけます。顔が白いので全体に白っぽく見えます。



ムクドリ

くちばしと足の黄色が目立ちます。芝地で餌を探したり、農家の耕運機の後について回ったりしています。

寄の清流の生き物



カジカ

水のきれいな底にすみま
す。1~4月に石の下面に卵
を産みつけオスが保護しま
す。



イワナ

夏の日中水温が13℃~15℃
の地点より上流にすみま
す。こん虫、小魚、カエル
などを食べます。



ニジマス

サケ科魚類としては、高い
水温にも強く、成長が速
く、飼育しやすい。野外で
はこん虫や小魚を食べてい
ます。



ヤマメ

サクラマスの陸ふう型。
冷水を好み、こん虫が主
食。8~10月、れき底に産
卵します。



オオヤマカワゲラ



チラカゲロウ



ハグロトンボ



ゲンジボタル



ヤマアカガエル



アズマヒキガエル

寄の地形・地質

神奈川県北部には、海拔1,500m以上の山々からなる丹沢山地があります。松田町北部の寄地区は、丹沢山地の南麓に当たり、山地に降った雨は、寄沢、中津川、川音川を経て、酒匂川に合流し、相模湾に注いでいます。この丹沢山地は、大昔は南の海で生まれ、フィリピン海プレートとの移動に伴い北上してきたと考えられています。

約1,700万年前、海底数千メートルでマグマが噴出し、溶岩やその破砕物、火山灰などが海底に堆積しました。中でも海底の玄武岩質マグマの噴出は、丹沢山地に見られる枕状溶岩として確認できます。その後、海底火山が成長し、海上に火山が顔を出しました。

約1,500万年前には、その火山島のまわりにサンゴ礁ができました。アオサンゴ、ショウガサンゴ、ウミバラサンゴ、シコロサンゴ、キクメイシサンゴなどの化石が石灰岩の中に見られることから、当時は熱帯から亜熱帯の気候であったことが推測できます。また、ネフロレピジナ、ミオジプシナ、アンフステジナなどの大型有孔虫の化石から、その時代が新生代中新世中期（約1,500万年前）であることがわかります。これらの堆積物をまとめて、丹沢層群と呼んでいます。

この丹沢火山は、フィリピン海プレートにのって、1年間に数cmの速さで南方の海から北上してきました。約800～500万年前頃、日本列島に衝突し、付加して、日本列島の一部になりました。そのときの圧力は大きく、丹沢山塊だけでなく本州にも大きな地殻変動をもたらしました。

約500～400万年前、丹沢山塊の深部に、大量のマグマが貫入しました。このマグマは、地下数kmの深部でゆっくり冷え固まったために、構成物全てが結晶（鉱物）からできた岩石になりました。黒っぽい斑禰岩、やや黒っぽい閃緑岩、白っぽい石英閃緑岩やトーナル岩などが見られます。黒っぽい鉱物は主に角閃石や黒雲母、白っぽい鉱物は主に斜長石や石英です。この高温のマグマの貫入で、その熱によりマグマの周りの岩石を緻密でかたい変成岩（角閃岩などのホ



枕状溶岩



皆瀬川キクメイシ



皆瀬川ネフロレピジナ



閃緑岩



足柄層群



塩沢層貝化石

ルンフェルス)に変えてしまいました。

約200万年前、丹沢山塊とフィリピン海プレートによって北上してきた伊豆火山島との間に深く狭い海ができました。そこに堆積物がたまりました。この堆積物は足柄層群と呼ばれ、主に礫岩、砂岩、泥岩の層からなり、松田山に多く見られます。

約70万年前頃には、フィリピン海プレートによる北米プレートへの沈み込みにより丹沢山地が急激に隆起しました。足柄層群が堆積していた深く狭い海に、大量の丹沢山地の岩石が運ばれてきて、円レキとしてさらに堆積しました。その後、海は浅くなり、浅海や潮間帯を示すハマグリやカキなどの貝類、近くに陸地があ

ったことを示す樹木片が、地層の中で化石としてよく見られます。

約40万年前頃、伊豆地塊の北部に箱根火山の活動が始まり、大量の火山灰を降り積もらせました。6万5千年前には箱根火山が大噴火を起こし、東京方面に向かって大量の火砕流を流し、ほぼ神奈川県全域を埋め、寄地区では一部が溶結凝灰岩(田代石と呼んでいます)になったと考えられています。

約10万年前から富士火山の活動が始まり、多くの火山灰がたまりました。1707年(宝永4年)、富士火山の活動が起こり、富士宝永噴火では、多量のスコリアを噴出し、約20~30cmの厚さにたまりました。

2万8千年前、現在の鹿児島県の始良カルデラで大規模火砕流が噴出しました。そのとき火山灰として上空に吹き出された細粒の火山ガラスが、神奈川県にも降り積もり、寄地区では始良Tn火山灰(AT火山灰層)として数cmの厚さで見ることができます。

寄地区の萱沼入口バス停付近の南側を流れる中津川は、深い谷となり清津峡と呼ばれています。この谷は、山北町の神縄断層の延長に当たると考えられています。これは逆断層で、この断層を境に北側が丹沢層群、南側が足柄層群で、高角度で北に傾いて接しています。



田代石



始良Tn火山灰層

コラム

松田山のなりたち

松田山は、今から約200～70万年前、深い海底にたまった礫、砂、泥からなる堆積岩からできています。これらの堆積岩は足柄層群といわれ、本州の一部となっていた丹沢山塊と南からフィリピン海プレートによって北上してきていた伊豆地塊の間の深い海に、堆積物がたまってできたものです。

約40万年前頃、伊豆山塊北部の箱根火山が活動を始め、火山噴出物を大量に噴出しました。箱根火山の北東側に当たる松田町には、偏西風によって多くの火山灰が堆積しました。また、箱根火山は約23万年前及び6万5千年前には爆発的な噴火を起こし、吹き出した大量の火砕流が東京方面に向かって流れ、足柄平野を埋めました。また、火砕流は松田山を乗り越えて寄地区にもたまり、溶結凝灰岩になりました。約10万年前から富士火山が活動をはじめ、東側に当たる松田地区に多くの火山灰を降り積もらせました。また、1707年（宝永4年）、富士宝永噴火ではスコリアが多量に噴出し、降り積もらしました。

箱根山側のフィリピン海プレートは、足柄平野の地下にもぐり、松田山や大井町から大磯町に広がる大磯丘陵等の北米プレートの下にさらに沈み込み、大地震（関東大震災、神奈川県西部地震）を起こしてきました。そのたびに、北米プレート側は隆起して台地化してきました。その証拠に、松田山や大磯丘陵の山の上には酒匂川にあるような河原の石が見られます。



自然館



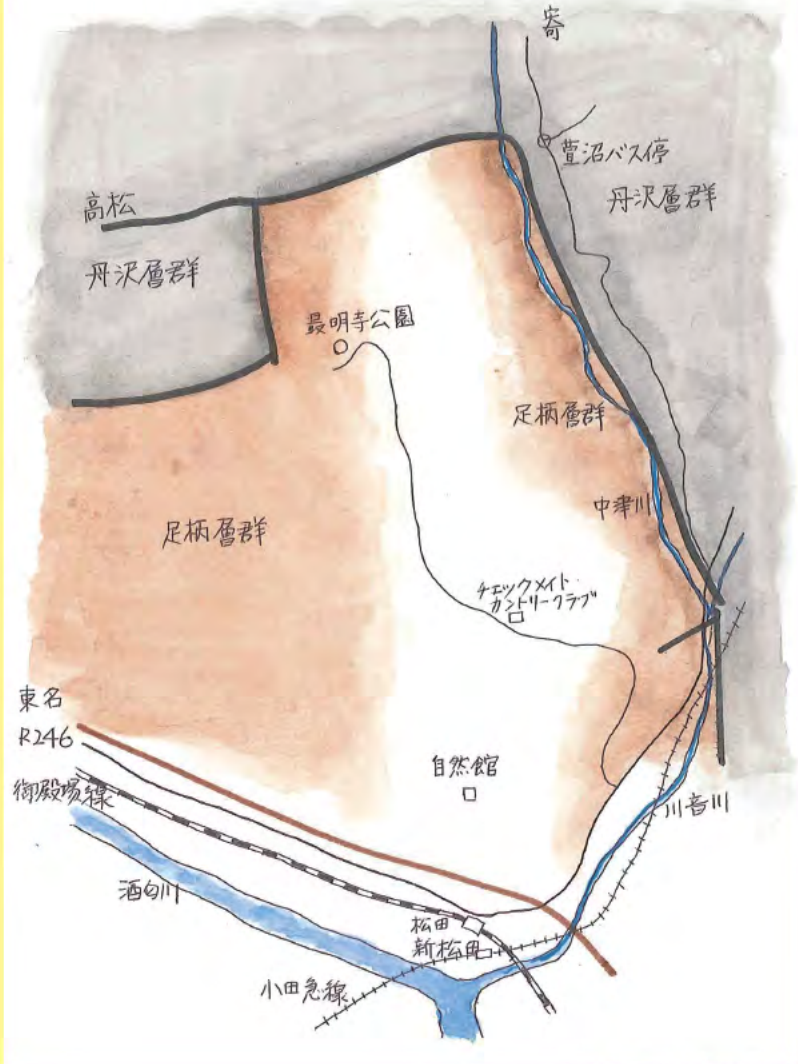
根岸山遠景



箱根山遠景

コラム

丹沢層群と足柄層群の境界イラストマップ



原図：山崎稲雄氏